

学習者の自己実現と地球社会への貢献のために —公文式教育法の試みと目指すもの—

細野 昭雄

私たちの夢 —KUMONの目指すもの

私たちには夢がある。それは個人別教育による人材育成を通じて世界平和に貢献すること。公文教育研究会(以下 KUMON もしくは公文)は「個々の人間に与えられている可能性を発見し、その能力を最大限に伸ばすことにより、健全にして有能な人材の育成をはかり、地球社会に貢献する」という理念を掲げ、その実現に向けて世界のあらゆる国と地域で学ぶ機会を提供し、学習者が夢や目標に向かって主体的に学習している状態を目指している。日々の業務が、直接的または間接的に人生を豊かにし、社会貢献に繋がっているという矜持が、私たちのモチベーションの根源だ。

公文式教育法は、一人の父親による我が子への愛情から始まった。小学2年の息子の算数のテスト結果を心配した母親が、高校の数学教師をしていた夫、公文 公(くもん とおる、1914~95年)に相談したところ、我が子のために教材を作ることになった。自主性を育むため、自習で無理なく継続でき、かつ着実に学習効果を高めていける工夫を凝らした手作りの計算問題が、今日の公文式教材の原型である。息子は、父親の考案した教材を毎日30分自習してみる力を付け、小学6年の夏には微分・積分を学習できるまでに至った。それが近所の評判を呼び、請われるままに地域の子どもたちを自宅に集め、各自の能力に応じた内容を自習させたところ、どの子の学力も目に見えて上がり始めた。

「この方法で一人でも多くの子どもたちの可能性を伸ばしたい」との思いに駆られ、1958年に大阪で創業。親子の深い絆から生まれたKUMONの本格的な普及が始まった。創業から60年以上経過した今も、「自学自習で高校教材」という思想は脈々と受け継がれ、世界の子どもたちの学ぶ力を育み続けている。

グローバル社会における教育

変化が速く、不確実・複雑・曖昧な「VUCA」と言われる現代。今後さらにグローバル化、多様化が進む社会において、地球社会の未来を支え、21世紀を担う人材の育成がますます重要な課題となっている。物事に特定の答えが予め用意されていない状況下では、自己肯定感を持ち、自ら思考し、未知の領域に挑戦していく



創始者 公文 公 (写真はすべて KUMON 提供)

マインドセットが不可欠である。子どもが誰でも好奇心や学びたいという気持ちを持っているように、親は誰もが我が子の可能性を信じて幸せを願い、将来こんな人間に育つて欲しいという思いを持っている。KUMONは創業以来、子どもたちに高い基礎学力を身に付けさせるだけでなく、個人別教育により未知の内容を自力で解き進めていく喜びを体験させ、実社会に出ても主体的に物事に取り組む自立した人間になって欲しいとの思いで活動してきた。子どもたちが将来自己実現を成し遂げ、自らの人生を切り拓いていける「生きる力」を育てることこそ、KUMONが考える教育である。

世界への広がりとラテンアメリカでの展開

「我が子のために」という根源的、普遍的な人間愛に基づく地道な実践の積み重ねが、国境、人種、文化といった枠を超え、世界の50を超える国と地域に共感を持って受け入れられている所以である。KUMONの学習者数は世界で420万を超え、今この瞬間も地球のどこかで誰かが学習している。KUMONの海外への普及は、

1974年ニューヨークにおける算数教室の開設から始まった。日本で学習していた生徒が、親の海外赴任などで外国に住むようになり、「海外でも継続したい」との要望に応える形で開設されたものだ。

現在では、南極大陸を除く全ての大間に教室があり、ラテンアメリカ諸国でも、1977年ブラジルに最初の教室が開設された。1908年以来多くの日本移民を受け入れたブラジルへの感謝の念を創始者が強く抱き、いつか恩返しをしたいと考えていたことも背景にある。その後、1980年サンパウロ現地法人設立、1985年ペルー（リマ）に教室開設、1995年にはボリビア（ラパス）に教室開設、チリ（サンティアゴ）とメキシコ（メキシコシティ）に現地法人設立。1998年アルゼンチン（ブエノスアイレス）、2004年コロンビア（ボゴタ）にそれぞれ現地法人設立。当初は日本人や日系人が主な対象だったが、今では現地の指導者による現地の子どもたち向けの教室が殆どとなっている。また、今年6月にはウルグアイ（モンテビデオ）にも教室を開設し、近々パナマ（パナマシティ）にも開設見込みで、これらラテンアメリカ諸国合計の学習者数は20万を超える（2019年3月現在）。

算数・数学、母国語に加え、外国語としての英語と日本語も

算数・数学の個人別教育から始まったKUMON。算数・数学教材は、海外への進出に伴って多くの言語に翻訳さ



南米公文社

れ、世界でほぼ共通の教材が使用されている。学力の基礎は読み書き計算にあると言われるとおり、KUMONでは母国語教材も提供しており、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語などがある。ラテンアメリカ諸国を例にとると、ブラジルではポルトガル語、メキシコ、コロンビア、チリ、アルゼンチンなどではスペイン語を現地の子どもたちが学習し、母国語能力を高めている。個人別教育の対象は、子どもたちだけに留まらず、現在では乳幼児から高齢者まで様々な世代に広がりを見せており、また、教材は算数・数学、母国語に加え、外国語としての英語と日本語も提供している。グローバル化が進む世の中において、事実上の世界標準となっている英語を学ぶことは不可欠と言える。また、ブラジルでは日系企業勤務者や漫画やアニメを含む日本文化に興味を持つ若者が日本語を学習する例が目立つ。そのため、KUMONで英語や日本語を学習する大人も珍しくない。

英語の初級教材では、イラストを見ながら身近な単語の発音や歌を聞くところから始めるので、英語特有のリズムが楽しく自然と身に付き、興味を持って楽しく読み進められるストーリーを使った教材には、使ってみたくなる会話文もふんだんに盛り込まれている。その後高いレベルまで無理なく進んでいくようきめ細かに構成された教材を使って語彙や文を蓄積しながらリスニングや音読を行い、「聞けて、読めて、意味がわかる」状態になってから文法を習得するので、達成感を味わえる。教材が進むにつれ、さらに多くの文章や思考に触れることができるので、高い読解力を身に付けることができる。ブラジルでは、より実践的・実用的な英語力を試す場として、KUMONの生徒を対象に TOEFL Junior® 受験の機会を提供しており、高い学習成果が実証されている。

また、ブラジルで使用する日本語教材はポルトガル語版になっており、細かくレベル分けされたスマルステップで進む自学自習形式なので、生徒の日本語力に応じた



学習者（チリ）

レベルから学習を開始できる。新聞・雑誌・書籍・メールが読める読解力につけることが目標で、日系人のみならず、非日系の学習者も多い。

KUMONフランチャイズの特徴

現在フランチャイズという事業形態は一般にも良く知られているが、KUMON 創業はフランチャイズという概念自体がまだ確立されていなかった時代。そんな中、KUMON は手探りで独自のフランチャイズの仕組みを構築してきた。

KUMON の教室には年齢・学年、習熟度によるクラス分けは無い。一人ひとりができるところから開始し、その後自分のペースで進んでいく「ちょうどの学習」を実践しているので、教室の指導者が非常に重要な役割を果たす。指導者の役割は、一人ひとりのできることを見つけ、学力や個性を把握した上で「ちょうどの学習」を提供して可能性を引き出すこと。即ち、一人ひとりの努力を認め、ほめ、励ましつつ、「問題の解き方や答えを教える」のではなく、生徒に合わせた教材やヒントを与えることにより自学自習をサポートすることである。一人の指導者が複数教科を同時に指導できるのも、生徒が個人別に自学自習していくれる教材があるからこそと言える。

私たちが最も大切にしていることの一つは、その指導者（フランチャイジー）との関係構築である。フランチャイジーは、子どもの可能性を心から信じ、成長の場面に立ち会って喜びを共感し、時には保護者と共に悩み考えながら地域の家庭教育に貢献する方々。その志を同じくして共に歩む方々への感謝と敬意を抱きつつ、全力で支援することがフランチャイザーとしての KUMON の務めと言える。おかげさまで、近年ブラジルのフランチャイズ業界で優秀賞を頂くなど KUMON の認知度と企業評価が高まっている。



指導者（ブラジル）

ラテンアメリカの多くの教室における指導教科は算数・数学、国語（ポルトガル語またはスペイン語）、英語の3教科。営業日は週最低2日（教室日以外にも準備等の時間が必要）。フランチャイジー募集に当たっては、ビジネスマインドを重視するのではなく、むしろ地域密着型で末永く活躍できる教育者としての資質に重点を置いており、比較的少ない初期投資で始めることが可能である。フランチャイジーになると、多くの仲間の指導者と出会い、学びあう機会が頻繁に設定されている。同じ地区の指導者同士の会合、共通の課題を持つ指導者同士の勉強会、相互の教室訪問、南米の指導者が一堂に会するイベントなど、いつでも熱心に話し合ってノウハウを共有し、切磋琢磨できる仲間づくりの仕組みがある。つまり、生徒だけでなく、指導者自身も能力開発し続ける存在なのである。また、そんな仲間がいるからこそ、指導者が長期に渡って教室を楽しく続けて下さっているに違いない。フランチャイジー同士が競合相手になってしまいがちな他社の状況を考慮すると、その仕組み自体が KUMON のフランチャイズの特徴と言えるだろう。

今年2月には横浜で KUMON 創立 60周年記念式典が開催され、世界から関係者約7,500名が集った。南米からもおよそ150名が参加し、今までの歩みを振り返るとともに、今後歩んでいく方向性を確認する場となった。国や地域、文化や習慣、教育システムや世代が異なっていても、相互に意見交換して学び合えるのは、世界共通の算数・数学教材が使用されていることに加え、子どもから学ぶという共通の価値観や姿勢によるところが大きい。

日本では「くもん、いくもん！」で知られている KUMON。時を超えて、国境を越えて、ラテンアメリカの地でも存在を更に広く知って頂き、学習者一人ひとりの自己実現と地球社会への貢献を果たしたい。

（ほその あきお 南米公文 社長室長）



南米公文メンバー